

## 部会及び関係団体ヒアリングにおける意見整理表

第4次大阪府スポーツ推進計画の全体構成イメージ		御意見	全体構成(案)及び骨子案たたき台への反映	
めざすべきスポーツ像 スポーツを通じて未来のウェルビーイングを創造する ～全ての人が健康と充実を感じられるまちへ～ ウェルビーイングの向上	委員等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能性を基本理念としてベースに置き、計画を作る必要がある。</li> <li>・持続可能性が基本理念におかれていた万博を開催した大阪だからこそ策定できる計画がある。</li> <li>・持続可能性の理念に沿ったものにする。</li> <li>・「未来のウェルビーイングを創造する」とあるが、府民の目線になると「作っていく」や「獲得する」という表現になる。</li> <li>・「都市」「まち」の関係性をどこかで整理してもいいのではないかと考える。「都市」は政策単位、「まち」は生活実感というような形で使われると思うので、使い分けることでよりマスタープランの精度が上がると感じている。</li> <li>・柱のボトムにサステナビリティがあり、それぞれの柱は基本理念にのっかって取り組んでいかなければならない。</li> <li>・人と人とのつながりや関係作りがウェルビーイングの向上につながる傾向を示すデータがたくさんある。</li> <li>・人と人とのつながりによるウェルビーイングの向上を引き続きめざしていくことが必要。</li> <li>・つながりをどのように作っていくか、第4期計画の中にエッセンスとして入れていくのが良い。</li> <li>・スポーツの価値が長期的に安定していくような、持続可能性が念頭にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めざすべきスポーツ像を「持続可能なスポーツ都市 OSAKA」とし、基本理念に「1 府が有する資源を活用した持続可能なスポーツ振興」と記載。</li> <li>・府全域を対象とした政策範囲を「都市」とし、それ以外を「まち」として整理。</li> </ul>	
	関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かとつながり、コミュニケーションをとることで、充実感や幸福感を感じる人は多く、私たちの事業の参加者もそうである。まさにウェルビーイング。</li> <li>・大阪府の強みをいかした計画となれば良い。</li> </ul>		
1 ライフステージに応じた機会の提供	委員等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどものときに運動が楽しいと思える機会、取組みの設定が必要。</li> <li>・子どもと大人が同時にスポーツを体験してもらえるような取組みも必要。</li> <li>・歳を重ねても身体を動かすことや、身体活動に関して日常に根差したものにできるような場の設定、機会の提供は必要。</li> <li>・高齢化社会が進む中で、高齢者の身体を動かす場、集える場を提供していくのが、今後も引き続き必要。</li> <li>・実施率の低い層をターゲットにしていくことも重要で、年代層で戦略を変えることも必要。</li> <li>・例えば部活動において、自走していけるようなプログラムが必要。</li> <li>・20歳以上も大事だが、小中学生や高校生にスポーツを楽しく素晴らしいと実感を持たせてあげるのが大事。</li> <li>・部活動指導はとても大事。人材の確保だけでなく、年度ごとにてきているか見える化することで、指導者の質を担保することも大事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども期から運動・スポーツが楽しいと感じ、運動・スポーツを続けたいと思えるような取組みや、世代ごとの取組みを記載するため、子ども期、子育て・働き盛り期、高齢期に分けて施策を記載。</li> <li>・「1 ライフステージに応じた機会の提供」にワールドマスターズゲームズ(WMG)について記載。</li> </ul>	
	関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた機会の提供について、幼児がスポーツをする機会、習慣化する環境づくりが課題と感じる。</li> <li>・子どもの頃からスポーツに親しみ、楽しむ経験は重要であり、ゲーム感覚で体を動かすことで楽しさを実感するなど、これがまさに「レクリエーションスポーツ」。</li> <li>・ライフステージに応じた機会の提供について、子供たちとマスターズの融合、ライフステージを超えた機会となればと思っている。マスターズのことについては、我々が協力できることもあるが、ライフステージ横断型の機会をどう捉えていけるかが気になるところ。</li> <li>・第4次スポーツ推進計画の軸は、スポーツの裾野をどう広げていき、持続可能にしていくかだと感じる。例えば、部活動の地域展開などでは、大学生が地域のクラブ活動に参画している様子など、持続可能性を感じる。</li> <li>・スポーツへの入り口やハードルを低くして、どなたでも参加できるようにすることが使命。</li> </ul>		
	2 パラスポーツの推進	委員等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人のスポーツを特出ししていくのかについて議論してほしい。</li> <li>・「すべての人」と表現しているのに、重点項目でパラスポーツを特出しすると矛盾した形になる。</li> <li>・パラスポーツをより推進させ、共生社会の実現に向かっていくことが重要。</li> <li>・「ともにスポーツ、ともに楽しむ」のような表現がパラスポーツの充実につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3 スポーツ環境づくりによる共生社会の実現」にパラスポーツの推進を入れ、インクルーシブの考えをより明確にする。</li> <li>・各施策について、めざすべき目標を記載。</li> </ul>
		関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツと言うのではなく、インクルーシブスポーツ、インクルーシブな大会をめざしている。</li> <li>・それぞれの障がいの程度にあった、また、障がいのある人と健常者が一緒になってスポーツをすることが、ワールドマスターズゲームズにも望まれており、大会のレガシーとして残したい。</li> <li>・大阪府の障がい者スポーツの所管課は、福祉部であり、府内市町村についても大阪狭山市のみ教育委員会が所管、その他は全て福祉部が所管している。スポーツ施策が一元化されていない現状。</li> <li>・第3次スポーツ推進計画には、府障がい者スポーツ大会や全国障がい者スポーツ大会、障がい者スポーツ施設のことを掲げているが、めざすべきところが不透明。</li> <li>・協会の取組みを、大阪府の取組みと認識してもらえているか不透明であり、どれぐらいの効果を達成してきているのかについても十分確認されないまま、10年ぐらい経過していると感じる。</li> <li>・大阪府が協会事務局の人件費を負担するなど、しっかりバックアップしてもらわなければならない。どこまで我々がやるのか、そもその組織、どんな風に府が考えて、我々が動くのか、もう少し整理されないといけない。</li> <li>・各市町村がやっているパラスポーツの取組みを大阪府が吸い上げていくことで、結果として全ての人が健康と充実を感じられるようになるのではないかと。市町村がやっていることを把握し、情報共有してほしい。府内市町村で障がい者スポーツにしっかりと取り組んでいる好事例があるので、情報を吸い上げて共有するなど、今あるものを最大限に活かしていくことが大事。</li> <li>・市町村の活動をしっかりと吸い上げて、そこから広がりができ、結果として大阪府障がい者スポーツ大会の参加者が増える形。第4次計画では、全部繋がっているという見せ方をしていたら嬉しい。</li> <li>・国が作成している指導案付きのDVDなど、教育に取り入れていくことで、共生社会の実現に向けたスポーツ環境づくりを学校現場からできる。</li> <li>・障がい者にとってのみならず、支える人、やる人、見る人も含めるかについて、しっかり考えて欲しい。</li> <li>・元々パラスポーツ自体が全ての人が楽しめるようにできているので、様々な人にパラスポーツをやっていただくことによって、共生社会の実現につながると思う。</li> <li>・パラスポーツを活用することで、パラスポーツのさらなる広がりにつながれば良い。また、パラスポーツを取り入れて、対象者を障がい者も含む形で実施すれば、生涯スポーツ振興につながる。</li> <li>・支援学校では、多くの学校で地域へ学校施設の開放を行っていないようだが、教育委員会等と連携し、放課後デイの人たちが学校を使うことができ、子どもたちが運動できる場になれば良い。</li> <li>・しっかりと取り組んでいる部分を情報共有することが大事であり、それができていないからやっていないように見える。また、健常者、障がい者に関係なく、スポーツを選ばなくなってきていることも事実であり、スポーツをしている人をどう支援するのことも重要。</li> <li>・教育に取り入れられたり、様々なライフステージやいろんな方々にパラスポーツを取り入れていただくことで、関わる人が増え、社会全体に広がっていくことでパラスポーツの推進に繋がれば良い。</li> <li>・小中学校や高校でも軽度障がいのある児童・生徒が在籍されていると思うので、一緒に部活動やスポーツをすることが理想。しかしながら、どのように実施したら良いか、ノウハウがなくて現場の先生方が困っている場合には、パラスポーツの指導経験のある指導員に協力してもらうなどができれば良い。</li> </ul>	
1の柱 誰もがスポーツに親しむことのできる 社会の実現	委員等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを通した健康づくりが重要。</li> <li>・スポーツ推進委員の認知度を高めるなど、ささえる活動を周知することで、ウェルビーイングの向上ができれば良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2 スポーツに親しむ機会の創出による心身の健康」を重点項目として、スポーツと健康の取組み等を記載。</li> <li>・子ども期から運動・スポーツが楽しいと感じ、運動・スポーツを続けたいと思えるような取組みや、世代ごとの取組みを記載するため、子ども期、子育て・働き盛り期、高齢期に分けて施策を記載。【再掲】</li> <li>・従来からの「生涯スポーツ」、新たな「レクリエーションスポーツ」などの言葉について、定義づけを行うなど整理する。</li> </ul>	
	関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国は「生涯スポーツ」をよりみんなにわかりやすい「レクリエーションスポーツ」という言葉で表現しようと考えているようだ。</li> <li>・「レクリエーションスポーツ」という言い方で、幅広い世代にスポーツに親しんでもらえる活動が展開でき、府レクリエーション協会が関わり、府民のスポーツ実施率向上に繋がったら良い。</li> <li>・子どもの頃からスポーツに親しみ、楽しむ経験は重要であり、ゲーム感覚で体を動かすことで楽しさを実感するなど、これがまさに「レクリエーションスポーツ」。(再掲)</li> <li>・スポーツへの入り口やハードルを低くして、どなたでも参加できるようにすることが使命。(再掲)</li> <li>・第4次スポーツ推進計画の軸は、スポーツの裾野をどう広げていき、持続可能にしていくかだと感じる。例えば、部活動の地域展開などでは、大学生が地域のクラブ活動に参画している様子など、持続可能性を感じる。(再掲)</li> <li>・活動を支える方が高齢化してきている課題がある。</li> </ul>		

